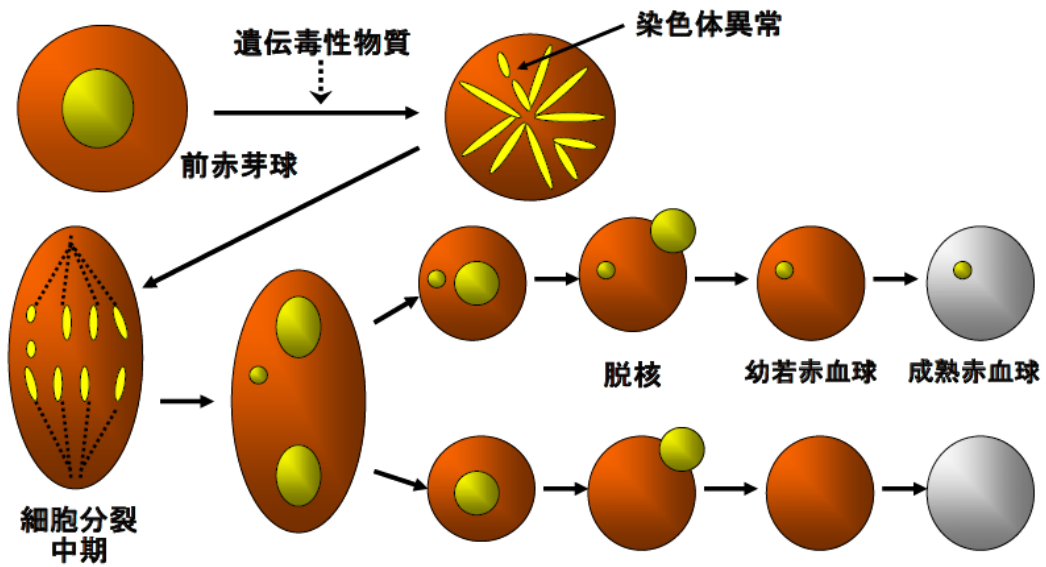


げっ歯類を用いる小核試験 (骨髄, 末梢血)

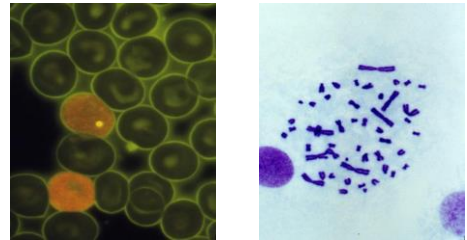
— 骨髄細胞もしくは末梢血における小核誘発を指標に、生体内における染色体異常誘発性を評価する試験法 —

全ての研究・試験は、動物福祉の観点から「動物の愛護および管理に関する法律」および「実験動物の飼養および保管等に関する基準」に適合することを審査して確認しています。また、動物施設は動物の人道的な管理を推進するAAALACの国際的認証を取得しています。



小核試験の特性

- * 骨髄または末梢血の幼若赤血球を対象とした小核誘発を指標に、染色体異常誘発性を評価。
- * 小核試験のメリット
 - 1) 異数性誘発物質も検出可能。
 - 2) 染色体異常試験に比べて観察が容易であり、フローサイトメリーなどの自動化が可能。



- 3) 染色体異常に比べて異常を検出可能な期間が長く、一般毒性試験への組込も可能

試験概要

- * 動物：ラット，マウス
- * 匹数：5～6 匹 / 群
- * 最高用量：最大耐量，1/2LD50など，毒性が無い場合は2000 mg/kg
- * 用量：公比 $\sqrt{10}$ 以下，合計 3用量以上

